

【縣市町村事例】

港まち焼津市における生活排水処理と合併処理浄化槽設置促進の取り組み

焼津市上下水道部下水道課 小屋敷環境管理センター

1. 市の概要

「日がカンカン照ると、焼津というこの古い漁師町は、中間色の、言うに言えない特有な面白味を見せる。まるでトカゲのように、町はくすんだ色調を帯びて、それが臨む粗い灰色の海岸と同じ色になり、小さな入り江に沿って湾曲しているのである。」

『対訳・焼津の八雲名作集』所収「焼津にて」より小泉八雲著・村松眞一編訳注

2025年秋に放送開始のNHK連続テレビ小説「ばけばけ」は、明治時代の文豪ラフカディオ・ハーン（小泉八雲）の妻セツをモデルにした物語で、高石あかりさんがヒロインの松野トキを演じます。「耳なし芳一」や「雪女」などで知られる小泉八雲と焼津は所縁が深く、本人とその家族が初めて焼津を訪れたのは1897（明治30）年8月4日のこと。焼津の深くて荒い海が気に入った八雲は、以降その生涯にわたり避暑地としてほとんどの夏を焼津で過ごしました。また焼津での経験をもとにした作品も数多く残されています。



▲焼津市が紹介された電子雑誌「旅色 FOCAL」



電子雑誌「旅色」



(一社)焼津市観光協会
☎054-626-6266

そんな八雲ゆかりの焼津市（やいづし）は、令和6年度末人口 134,668 人の静岡県中部に位置する市で、志太平野の東端に位置し、北は遠く富士山を望み、高草山などの丘陵部を境に静岡市と接し、東は駿河湾に面し、西南には「越すに越されぬ大井川」と江戸時代に歌われた東海道の難所、大井川が流れています。

年間平均気温 16.5℃、冬季の降雪もまれな温暖な気候で、東京と名古屋のほぼ中間に位置し、JR 東海道本線に「焼津駅」と「西焼津駅」の2駅、東名高速道路には焼津 IC と大井川焼津藤枝スマート IC があり、交通の利便性に優れています。駿河湾、高草山山地、大井川によって形成された扇状地という特徴的な自然・地理が見られ、市域のほとんどが平地で大井川の豊富な伏流水を利用した企業立地も進んでいます。



▲八雲(左)と妻セツの写真(小泉八雲記念館提供)



▲「小泉八雲滞在の家跡」の碑。家屋は通り土間を備えた典型的な町家で、現在は明治村に移築されています。



▲仙台石に「小泉八雲先生諷詠之地」と刻された記念碑。1925年に当時の焼津青年団が建立したもの



▲八雲が滞在した「浜通り」。駿河湾に沿って伸びるほぼまっすぐな街道とその街道を中心に形成された細長い集落

日本有数の港町で「焼津港」「小川港」「大井川港」の3つの港があります。焼津港は天然焼津ミナミマグロや、全国屈指の水揚げ量を誇るカツオが有名で、小川港は近海の新鮮なサバやアジが水揚げされます。大井川港は駿河湾でしか獲れないサクラエビや大井川の恵を受けたシラスが水揚げされます。これらの豊富な水産物を利用した水産加工業も盛んで、鰹節、なまり節、佃煮、ツナ缶、黒はんぺんなどが特産品です。3つの港から水揚げされる新鮮な魚介類が楽しめ、鮮魚市場や飲食店が充実しており、港町ならではの魅力があります。



焼津市の財政状況は、他の多くの自治体と同様、少子高齢化や人口減少といった社会情勢の変化に直面していますが、健全な財政運営を維持できるよう努力しています。

「地方公共団体の財政の健全化に関する法律（財政健全化法）」に基づき、公表している健全化判断比率（実質赤字比率、連結実質赤字比率、実質公債費比率、将来負担比率）等においては、焼津市はいずれの比率においても、国が定める早期健全化基準を下回っており、財政状況は健全です。

例えば実質公債費比率は過去3年間の平均で概ね6%台で推移しており、早期健全化基準（25%）を下回っています。これは地方債の返済負担が比較的軽いことを示しています。また、将来負担比率は、将来負担すべき実質的な債務額が黒字（マイナス値）となっているため算定されません。これは将来にわたる財政的な負担が少ないことを意味し、良好な状態を保っています。

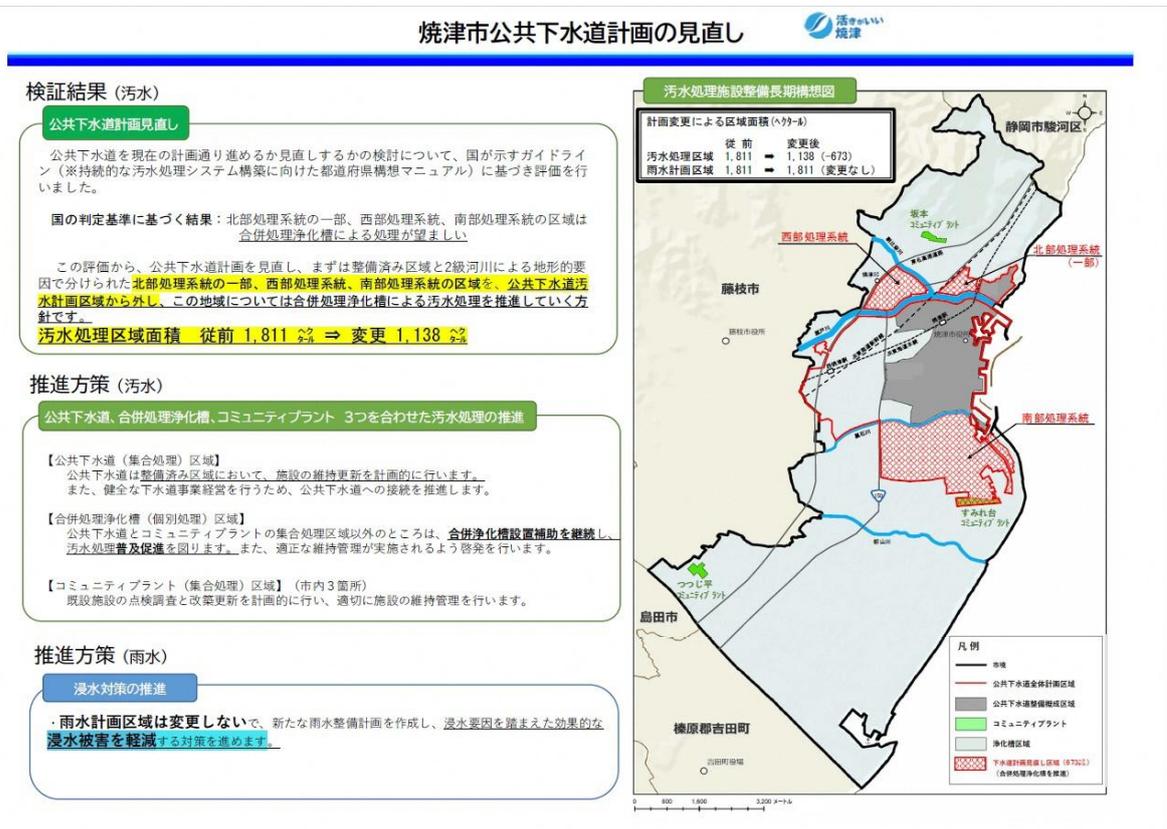
しかし、大半の自治体が抱えている全国的な人口減少・少子高齢化の傾向や、公共施設の老朽化といった構造的な課題は存在しており、今後も安定した財政運営を継続するために、財政健全化に向けて取り組んでいきます。DXの推進やスマートシティ施策などにより、効率的な行政運営と市民サービスの向上を図ることで、これらの課題に対応していく方針です。

2. 生活排水処理状況と公共下水道計画

(1) 公共下水道計画における汚水処理区域の見直し

焼津市は、主に公共下水道と合併処理浄化槽、コミュニティプラントによる生活排水処理を行っています。令和6年度末の汚水処理人口普及率は75.8%。その内訳は、下水道20.8%、合併処理浄化槽53.2%、コミュニティプラント1.8%となっています。こうした状況を踏まえ、本市では持続可能な汚水処理システムを構築するため、国が示すガイドラインに基づき公共下水道計画の見直しを行いました。その結果、公共下水道の汚水処理区域の一部を計画から外し、この地域については合併処理浄化槽による汚水処理を推進する方針としました。

従前の計画では1,811haを汚水処理区域としていましたが、二級河川瀬戸川以北、二級河川黒石川以南の未整備区域を区域から外し、1,138haに変更しました。これは、主に市街化調整区域や人口密度が低い地域において、経済性、下水道整備の費用対効果や運営の持続性などを総合的に判断した結果、合併処理浄化槽による汚水処理を推進することが望ましいと判断したものです。



こうした公共下水道計画の見直しは次の理由から行われました。

- ①人口減少と財政状況：全国の多くの自治体と同様に、焼津市も人口減少が進んでおり、有収水量の減少とそれに伴う下水道使用料収入の減少が予測されます。使用料の改定も検討していきますが、広範な地域に下水道を整備し続けることは、将来的な財政負担が大きくなる可能性があります。

- ②公共下水道整備の費用対効果：下水道整備が進んでいない地域では、すでに合併処理浄化槽の普及が進んでいます。そうした地域に改めて下水道を整備するよりも、合併処理浄化槽の設置を推進する方が全体として効率的であるという判断をしました。
- ③持続可能な事業運営：下水道施設の老朽化対策や更新費用が増大する中で、健全な事業運営を持続していくには、効率的な設備投資を行うために、整備範囲を最適化する必要があります。

（２）施設のダウンサイジングと効率化

焼津市の公共下水道事業経営戦略では、将来的な人口減少を見据え、既存の施設や管路の更新時に「ダウンサイジング（規模を小さくする）」を検討し、経営の効率化を図る取り組みを進めています。

この取り組みには次の２つの「最適化」を含んでいます。

- ①管路の最適化：人口減少等によって総処理水量も減少するため、将来の需要に見合ったサイズの管路に更新することで、建設費や維持管理費の削減をしています。
- ②処理場の機能最適化：処理能力の適正化や、省エネ設備の導入などにより、運転コストの削減を図ります。

焼津市における公共下水道計画の見直しは、人口減少社会における持続可能な下水道事業のあり方を模索する中で、より効率的で持続可能な汚水処理システムを構築するための戦略的な選択です。

整備範囲の見直しや施設のダウンサイジングといったこれら一連の取り組みは、限られた財源の中で、市民の生活環境保全と公衆衛生の向上、そして水環境の保全という下水道の役割を最大限に果たすための経営判断でもあります。

3. 単独処理浄化槽等の合併処理浄化槽への転換促進

焼津市では、第6次焼津市総合計画において、将来都市像を実現するための政策を掲げており、その一つを「安全安心で快適に暮らせるまちづくり」とし、これを形成する施策の中に「環境にやさしい持続可能な社会の推進」を定め、公共用水域の水質保全を基本事業として、合併処理浄化槽設置の推進を目指しています。

その一環として、公共下水道や地域し尿処理施設の整備されていない区域において、合併処理浄化槽の設置を促進するために次のような補助金制度を設けています。

- * 新築・増改築による合併処理浄化槽の新設：10人槽まで一律 200,000円
- * 単独処理浄化槽または汲み取り式便槽から合併処理浄化槽への設置替え：10人槽まで一律 650,000円（本体分 450,000円、宅内配管分 200,000円）

近年は事業効果が高いと言われる設置替えに力を入れており、合併処理浄化槽への設置替えが進んでいます。補助事業の促進のため、市広報紙や市HPへの掲載、また単独処理浄化槽を使用しているお宅を対象としたチラシ配布などの取り組みを行っています。

こうした取り組みによって平成30年度には100件に満たなかった設置替えの件数が、直近では3カ年度連続で200件を超えました(図1参照)。市民の環境への関心の高まりと市の啓発活動、施工業者の確実な施工の努力が連動して合併処理浄化槽への転換が少しずつ進んでいるものと考えています。

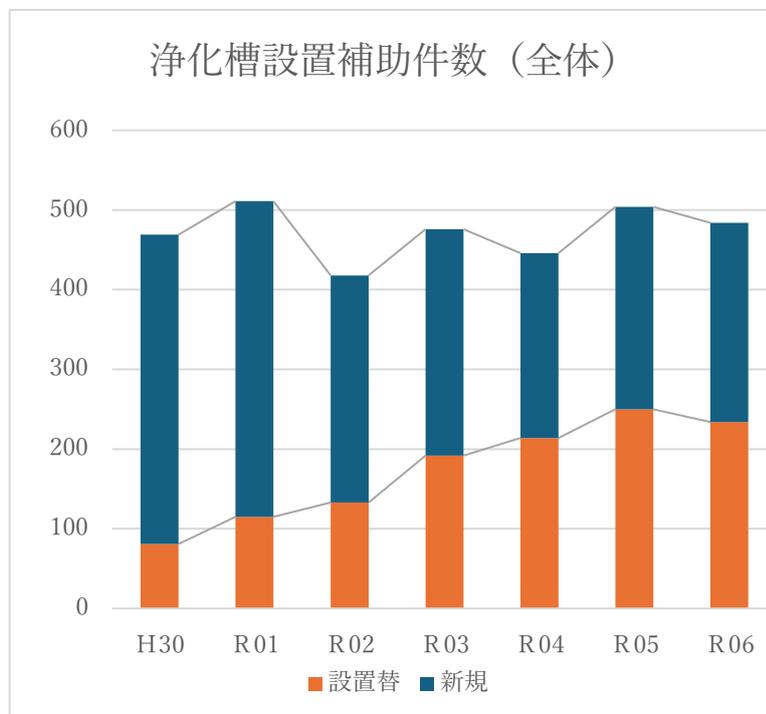


図1 焼津市の浄化槽設置補助件数

4. 市直営のし尿等の収集事業

し尿等の収集事業を市直営で行っていることは当市の特徴の一つです。多くの自治体では、民間委託や許可業者による収集に切り替えが進んでいると推測されますが、こうした中で焼津市はし尿等の収集を直営で行っています。市内一部地域では許可制度を導入しているものの、当市が直営を継続できているのは以下のような理由があります。

- ①過去の経緯と歴史：過去から直営で業務を行っており、その体制を維持し、長年のノウハウや職員の専門性が蓄積されていること。
- ②安定したサービス提供：自治体直営であるため、災害時や緊急時などにも柔軟かつ安定的にサービスを提供できるメリットがあること。
- ③公衆衛生の確保への意識：市民の健康と生活環境の保全という公衆衛生の根幹に関わる業務であるため、市が直接行う考え方であること。
- ④地域特性：人口規模や下水道普及率などにより、直営が効率的であると判断しており、下水道未整備区域では、し尿処理が重要なインフラとなると考えていること。
- ⑤安定した経営：焼津市のし尿処理事業特別会計が健全な運営を行っていること（焼津市のし尿処理事業は、特定の事業に要する経費をその事業から得られる収入で賄うことを目的とした「特別会計」として独立した会計で運営されています）。



▲焼津市所有のバキューム車



▲市直営部門の職員

特に近年大雨などによる冠水でトイレが使用できなくなるケースが増えていますが、こうした場合は速やかに対応できるのは強みの一つではないかと思えます。連絡があったその家だけでなく、訪問時に周辺の家にも声を掛け、困っていないか確認するなどの対応を取っています。

かつてバキューム車と言えば「臭い」イメージがあり、敬遠される車両として仕事に携わる私たち職員も疎外感のようなものを覚えることもありましたが、しかし、現在では車両や設備も改良が重ねられ、臭気もかなり軽減されています。ある職員から「訪問した家の小学生から『いつもきれいにしてくれて、ありがとう』と言われ、心温まる思いがした」と報告がありました。職員はこうした「ありがとう」の声を原動力とし、日々知識や技術を研鑽しながら市民生活を陰で支える大切な仕事にやりがいを持って従事しています。

このほか、DXの推進の一環として、仮設トイレ汲み取り依頼の電子申請を導入し、スマートフォンやパソコンから仮設トイレの汲み取り依頼が簡単に申し込みできるようになったほか、手数料の収納業務においてはコンビニ・アプリ決済制度を導入し、利用する方の利便性を高めるなど、市民サービスの向上に努めています。

▲仮設トイレ汲み取り依頼の電子申請フォーム（PC用）

5. 結びに

冒頭にご紹介した作品「焼津にて」で八雲は灯籠流しを間近で確かめるため盆の海に入る場面があります。

「しかし次の瞬間、ふと思いついたのは、その灯のところへ、思い切って泳いで行ってみればよいという考えであった。灯はゆっくりと動いていた。私は着物を浜辺に脱ぎ、飛びこんだ。海は穏やかで、美しい燐光を放っている。一掻きするごとに黄色い火の流れがきらめいた。」

『対訳・焼津の八雲名作集』所収「焼津にて」より小泉八雲著・村松眞一編訳注

実はこの後、海へ入った八雲を心配して、浜へ迎えに行った滞在先の夫婦に彼は諫められてしまいますが、ここに描かれた焼津の海は美しく描写されています。

生活排水は下水道や浄化槽で処理されたもの、あるいは未処理のものも含めて最終的に海へと流れ下ります。明治時代に八雲が泳いだ焼津の海を今に受け継ぐ私たちは、よりきれいな海にして次の世代へ引き継いでいくその一助となることを目指していきたいと考えています。